

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	お客様の様子	・8月は夏休みがあり、今年は特に山の日が設けられて連休が取りやすくなったこともあって観光客がかなり増えた。買物単価はまだ低いが来客数は大分増えた。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数、客単価ともに前年をやや上回っている状況である。その中でも、猛暑のせいかもしれないが特に冷たいサラダやアイスクリームなどが好調に推移している。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・オリンピックと営業時間が重なり心配もしたが、何とか前年同月比の9割であった。しかし、プティックなどは最悪の状況であったと聞いた。
		旅行代理店（所長）	販売量の動き	・オリンピックがあり受注が落ち込むかと思われたが、前年に比べ国内旅行の受注が順調であった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・北陸新幹線開業効果はかなり薄れてきたが、今年の夏は猛暑の影響でタクシーの利用客が増えている。熱中症を避けるためではないかと考える。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・例年8月は新規契約数が伸びないが、今月はオリンピックの効果もあってテレビ、インターネット契約ともに前年を上回る勢いで推移している。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・店頭は秋物に変わってきているが、購買には結びついていない。客は様子見になっているようである。
		商店街（代表者）	それ以外	・来客数は少し上向きであるが購入単価は下がっており、売上や利益の増加には結びついていない。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・夏期休業の影響もあるが、販売目標数値及び利益目標数値ともに未達である。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・消費マインドは相変わらず低く、販売量は伸び悩んでいる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来店客の様子や最近の流れをみても、購買動向は変わらない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・今年のお盆の状況は、期間が短くなったということもあるが、予想以上にごちそうメニューの動きが悪かった。特に、もてなし需要が減ったようである。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・野菜の相場や天候によって売上は部門でばらつきがあるものの、全体としての販売量は前年並みに推移しており横ばいである。また、お盆商戦も前年並みでオリンピックによる売上の影響はほとんどなかった。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・8月は5年に1度の北信越レベルでの大会があったことから若干の売上増加になったが、ウィークデーなどそのほかにおいては変化がみられなかった。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今年の8月は前年に比べるとものすごく暑かった。前年より業績が良かった業種は景気要因ではなく気温によるものではないだろうか。また、前年より業績が悪かった業種も景気要因ではなく気温によるものではないだろうか。今後は夏だけでなく、気温対策が必須条件になってくる。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・残暑は厳しいが夏物の売行きは今一つ。テレビの販売がオリンピック効果で上向きであったもののトータルでは変わらない。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量が前年同月と比べて少ない。他メーカーとの競争もさほど多くなく、販売状況が活発でない。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・イベントにより来客数は増えたが、新車の売上に結びついていない。	
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車の投入効果が販売に結びついているが計画を上回るほどではない。	
	自動車備品販売店（役員）	来客数の動き	・7月は販促強化によってお得感を訴求することで集客が増えたが、8月に入って価格的なメリットがなくなると急に来客数が減った。価格に敏感であることを肌で感じる。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前も最低で今も最低ということで変わらない。今月は、ニッパチの8月ということで景気が悪いというのは昔からだが、毎月景気が悪い。ニッパチだからではなく毎月景気が悪いという状態である。	

	その他小売 [ショッピング センター]	販売量の動き	・暑い日が続き、夏物衣料や住まいの品、飲料やアイスなどの需要を期待したが、各商品が軒並み前年割れと厳しい結果となった。初めての祝日となった山の日でお盆時期の需要を期待したが、ピークは11日～14日と前半に偏って短いお盆期間だった。月間の買上客数はほぼ前年並みだったが買上単価が2%減と悪かった。
	一般レストラン (統括)	来客数の動き	・客は1回当たりの支払金額を抑えて買い物をするようになってきている。しかし、客単価が1,000円以下の外食店舗では来店頻度が減っているようには見えない。
	観光型旅館(経 営者)	来客数の動き	・近郊の大型レジャーランドに新しいアトラクションが開業したことにより、8月の宿泊数が前年比10%ほど増加した。
	観光型旅館(ス タッフ)	来客数の動き	・前年比で総売上80%、宿泊人数80%、宿泊単価98%となっている。個人旅行14名以下でみると前年比81%となりこの影響が大きい。また、企画募集も低調となった。
	都市型ホテル (役員)	販売量の動き	・宿泊部門は北陸新幹線開業以降は順調に推移してきたが、やや鈍ってきている。レストランおよび宴会部門は新幹線開業の昨年と同様の傾向が続いている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・8月は暑い日が続いたことから、外出を控えた人が多かったように感じた。
	その他レジャー 施設(総支配 人)	来客数の動き	・登録の会員数がほぼ現状を維持している。
	美容室(経営 者)	来客数の動き	・ここ数ヶ月は連続して来客数が前年をクリアしている。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・住宅ローンの低金利によって住宅を取得するには有利な環境であり、たくさんの客が取得に向け動いているが、ローコストの住宅が多く高価格帯への需要は少ない。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・消費税増税の再延期により客の動きに変化がみられず落ち着いた様子である。
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	お客様の様子	・衣料品の不調が目立つ。飲食は全国チェーンのロープライス店や家族連れで楽しめる店は人気だが、やや値の張る店は空席が目立つ。
	一般小売店[精 肉](店長)	来客数の動き	・お盆期間中は人も集まり、売上も多くとれたのだが、お盆の前と20日以降の売上はとても弱く来客数は少なかった。
	百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・夏物セール品や晩夏、初秋物の定価品の動きが鈍く売上が低迷している。また、昨年は月末にプレミアム付商品券の発売があって中旬以降は買い控えにより売上が低迷するという特殊要因があったにもかかわらず、今年は前年実績を更に割り込む日々が続いている。依然として衝動買いやまとめ買いといった消費行動は弱く来客数が少ない。
	百貨店(営業担 当)	お客様の様子	・前年は北陸新幹線が開業した初めての夏休みであり、お盆の帰省なども含めてどちらかというとアウトドア志向で旅行に出掛けるという消費行動があった。しかし、今年はオリンピックという要因もあるが、どちらかということと家中消費が多かった。暮らしの商材や食材にはお金をかけるがファッション関連や旅行関連には支出を抑える傾向があり、全体的には少し悪い状況が続いているようにみられる。
	百貨店(営業担 当)	お客様の様子	・8月に入った途端に売上が低減した。例年であればお盆辺りまで、価格が安くなっている商材を中心に動きはあるが、今年は非常にシビアで、衝動買いはまずない。しかし、8月中旬に入り、婦人衣料では秋物商材に動きが出始め、前半のマイナスをカバーする数字で推移している。
	スーパー(総務 担当)	単価の動き	・今年の旧盆セールは山の日で祝日となっており、前半は売上が伸びたが後半は失速して売上減になっている。また、各競合スーパーで集客のため特売商品の価格が安くなっている。
	コンビニ(店舗 管理)	単価の動き	・猛暑日が多く、山の日が祝日として加わったことは追い風のはずである。しかしながら、前年度はプレミアム付商品券があったため客単価の前年割れが著しい。
	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・消費が弱く感じられる。生活者はインフレとデフレの間で立ち位置に苦慮している。

	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・街角景気が持ち直したなどという表現が見受けられるが、どこのことかと疑うほど衣料品は悪い。低価格の物に目が行っておりデフレ感が強い。	
	乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・8月の販売量は前年同月比で113%の見込みである。5月の販売量は前年同月比で132%であったので3か月前との比較でやや下向きである。	
	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・8月はオリンピックで明るい材料はあったものの、猛暑の影響や食品の値上がりなどがあったため必需品以外への出費が抑えられたものとする。	
	その他小売 [ショッピング センター](統 括)	来客数の動き	・客単価をみると購買意欲自体は大きく変わっていないが、周辺競合環境の変化により来客数の減少がみられる。競合店のオープンから1年が経過して前年比100%を超過する日が多くなっているが、前年の落ち込みから比較すると完全に来客数が戻っていない。業種ではシネマが作品に恵まれず苦戦、衣料品、飲食業種がやや苦戦している。	
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・お盆期間は昼、夜ともに例年並みの集客があったが単価は1割ほど低かった。お盆期間以外は特に夜の集客が悪く、例年と比べると85%ほどで8月は大きなマイナスとなった。	
	一般レストラン (店長)	お客様の様子	・お盆以降の客足が良くない。旅館の宿泊数と比べて商店、飲食店は良くない。	
	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門は前年を維持しているが、レストラン部門で地元客の減少が続いている。ランチは安くても良いものを求められているので、値下げや価格の見直しと内容の充実と踏み切った。	
	通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・来客数はあるが販売数に結びつかず、家族での複数台購入が少なくなっている。	
	通信会社(役 員)	販売量の動き	・例年8月は閑散期であるが、今年は特に契約数が減少した。山の日とオリンピックが影響したようである。	
	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・前年同月で比較すると、北陸新幹線開業効果の反動から団体客、個人客ともに減少傾向である。インバウンド客も円高などの影響により減少となっている。	
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・消費税増税の再延期の影響で各地区の常設展示場の来場者数が軒並み減少しており、年末に向けた動きがどうなるかその影響は計り知れない。	
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・例年は客の動きが少ない月となるが、今年はイベントを行っても閑散としている。また、安価な物に対する要望が強く、高価な物に対する要望がほとんどない。	
	悪く なっている	コンビニ(店 長)	来客数の動き	・原因は不明だが8月の売上が悪い。例年だと8月が最も売上がある月なのだが、6~7月と好調だった売上が8月になって急に悪くなった。年間平均よりは良いものの、6~8月の3か月で一番悪い売上となった。このようなことは初めてで、売上別でみた場合でも平均的にほぼすべての商品群で7月を下回った。
企業 動向 関連 (北陸)	良く なっている やや良く なっている	-	-	
	化学工業(総務 担当) 司法書士	受注量や販売量 の動き 取引先の様子	・売上が好調で、昨年より増加している。 ・大きな取引ではないが、引き続き危険家屋の取り壊しや所有者が県外在住の物件売買が堅調である。	
	変わらない	繊維工業(経営 者) 一般機械器具製 造業(総務担 当) 一般機械器具製 造業(経理担 当) 精密機械器具製 造業(役員) 建設業(経営 者)	取引先の様子 受注価格や販売 価格の動き 受注量や販売量 の動き 取引先の様子 受注量や販売量 の動き	・衣料に関しては毎年8月は非常に良くない。また、工場稼働日数が少ないため状況はあまり良くない。 ・国内市場は安定しているが、当社の主力市場である欧米市場が伸び悩んでいる。 ・欧米向けの受注は依然として順調に推移しており、円高による収益減少の懸念は残るものの生産面では一定以上の数量を維持している。 ・国内の一部の百貨店店頭での売上が、今年6月以前の状況に回復しつつあると営業からの話もあるが、全体的には厳しい状態が続いているという認識である。 ・デフレ脱却のための景気浮揚策として公共事業の前倒し発注を期待したが、市町村では前年同期を大きく下回る発注しかなかった。しかし、景気が下向きとまで判断するには至らない。

	金融業（融資担当）	受注価格や販売価格の動き	・貸出金利の低下に歯止めが掛からない。新規実行金利は既に下がりきっているが、既存の貸出資産との入れ替えが進み収益環境は厳しい状況が続いている。株式市場や為替市場も振るわず資産運用業務の環境は悪い。	
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は酒類の売上が前年比マイナスで推移している。飲食店向けの売上が低迷している様子である。北陸新幹線開業効果がなくなった影響か観光客は前年に比べて減少している。お祭りの観光客も少なくなっている。	
やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・今春から販売数量が3か月前と、前年同月比と比較しても減少傾向にある。景気の先行き不透明感から消費が伸びていない様子である。	
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・端境期ではあるが、海外および国内ともに受注環境が厳しく、前年同期に比べて大きく落ち込んでいる。	
	建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・首都圏を除いて受注価格競争が一段と激化している。特に当地域では一部に安値受注の動きがみられ、受注環境の厳しさが増している。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・個人消費も含め物量の動きが先月に比べて悪くなっている。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今は個人客からの問い合わせや良い情報が大部分なくなったと業者間で話をしており、やや悪いと回答した。	
	税理士（所長）	取引先の様子	・製造業、建設業関係は非常に厳しいものがある。建設業は工事の受注状況が低迷している。特に土木関係が非常に低迷している。当地においては公共工事がこれから出てくると思うが、8月現在では非常に厳しい状況が続いている。製造業のうち機械工業関係では、円高によりキャンセルや延期となる受注案件が多くなっているようであり、良い月もあれば悪い月もある。特に8月はお盆休みが重なって生産額、生産量ともに非常に厳しい状況と聞いている。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	学校[大学]（就職担当）	求人数の動き	・7月までの求人件数は昨年並みで、内定率は昨年同期より高く推移している。企業からの2次募集や追加募集の案内も来ている。また、次年度採用に向けての説明会の問合せが例年よりも早く来ている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・経験やスキルを持つ求職者の依頼を受けているが、時給が横ばいなのでマッチングが厳しい。
		新聞社[求人広告]（担当者）	求人数の動き	・レギュラーの求人広告は前年同月の半分以下となったが、別途募集したUターン特別企画が好調だった。合計金額で前年比で90%ほどとなり、求人のニーズに大きな変化はない。募集職種の比率をみても前年とほとんど変わらず、人手不足感はあまり解消していないようであり求人状況はあまり変わっていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、新規求職者数ともに3か月前とほぼ同様の状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で0.2%減少、前月比では9.7%の減少となったが、ここ3か月間は3千人前後で推移しており大きな変動はみられない。
	やや悪くなっている	民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・求職希望者の登録が少なく、求人のオーダーがあっても該当者がいない状況である。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・発行1回当たりで50件ほどあった求人数が減少している。
	悪くなっている	新聞社[求人広告]（役員）	求人数の動き	・8月の求人広告売上は、前年同月比7割程度である。
		-	-	-